



関市

いつまでも安心して暮らしたいと
思えるまちづくりを



関市長 尾藤 義昭

現在関市では、市民生活を根底から支える「安全・安心なまちづくり」に取り組んでいます。いかなる災害にも対応でき、安心して子どもを産み育てられる環境整備や、医療・福祉体制の充実など、取り組むべき課題はまだ山積しています。

また、市民生活の多様化と少子高齢化が進むなか、快適で安心できる生活を営み、これからも住み続けたいと思えるまちづくりを進めるためには、良好な生活環境づくりなどに加え健康増進、医療、市民活動などに関する質の高いサービスを提供する必要があります。

そこで、わかくさ・プラザや市役所と中濃厚生病院との間に「健康福祉交流施設」を整備します。整備する施設は、健康福祉機能として、保健センター、健康増進室・診察室、託児所、病児保育所、中央地域包括支援センター、精神保健相談所、サービス機能として、旅券センター、市民活動センター、情報発信機能として、観光案内所・特産品販売施設、交通結節機能として、バス乗継所、その他機能として、多目的ホール、会議室、武儀医師会事務所、関歯科医師会事務所、関薬剤師会事務所、防災備蓄倉庫などを整備します。特に地震などの大災害や大事故、感染症の病気などが発生し、一度に多数の患者を処置することが必要となった際、中濃厚生病院の後方支援施設として、災害医療などが行える施設とします。

また、平成24年に開催される「ぎふ清流国体・ぎふ清流大会」に向け、6競技の会場となる関市に全国から大会に来られる選手や関係者の皆様を温かくお迎えできるよう、準備も進めています。